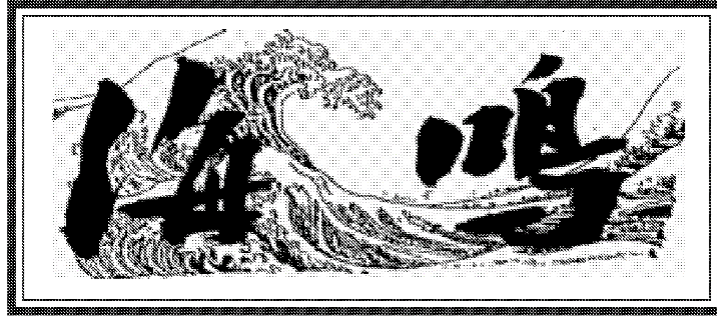


第 241 号

2025 年

8 月 6 日

建物改修に関する
アンケート結果



発行

新潟大学職員組合
教育学部分会

950-2181

新潟市西区
五十嵐二の町 8050
新潟大学教育学部内

これでいいのか建物改修（第2報、講義棟編）

「よりよい職場環境づくりのためのアンケート調査」の結果を報告します

新大職組教育学部分会では、より良い職場環境づくりを目的として、学部教職員全員を対象にしたアンケートを実施しました。

このアンケートは、組合員・非組合員を問わず、すべての教職員の皆様の意見を集約して目下の学部の抱える問題を把握し、今後の大学・学系・学部との交渉・懇談の基礎資料とすることを目的とするものです。

アンケートは6月17日から30日までの約2週間、Google Form に解答欄を設置し、回答者には、このForm にアクセスし、匿名で回答して頂く方法を取りました（所要時間は5分程度を想定）。なお、より多くの回答を得るために、期限を7月18日に延長し、総計36名の教職員から回答を頂きました。ご協力頂きましたことに感謝申し上げます。

本アンケートでは、建物改修問題、教員人事ポイントの暫定措置について重点的にお尋ねしております。今号では、建物改修問題に関する部分について報告しま

す。アンケートの実施に当たっての事実経過と問題意識は次の通りです。

建物改修（講義棟）について

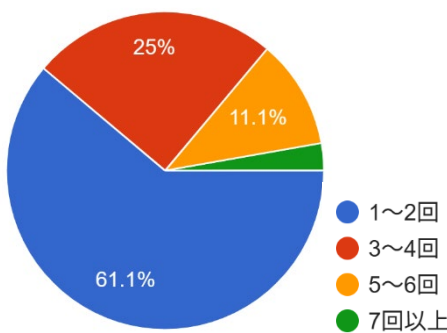
2023年に講義棟（B棟）の改修工事が終了し、同年9月から使用開始されています。新しくきれいな教室になったわけですが、教員、学生からは、教室数の少なさ、狭さ、廊下への、あるいは、廊下からの音漏れなどの苦情が聞こえてきます。

また、6月教授会においては、必修科目を開講するための教室の確保に困難が予想されるという異常事態が報告されました。関連して、2年生は多くの授業を教育学部棟の教室で受講しているにも関わらず、教室の面積計算においては3、4年生の学生数しか考えられていなかった点も問題になっています。

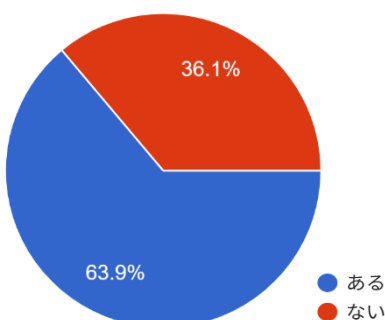
教室の環境は学生にとって重要な教育条件であると同時に、教員にとっては重要な労働条件の一つです。今後の改善のために、

研究室、実験室などを含め、建物改修に関して、現時点で感じておられる問題点、ご意見をお聞かせください。

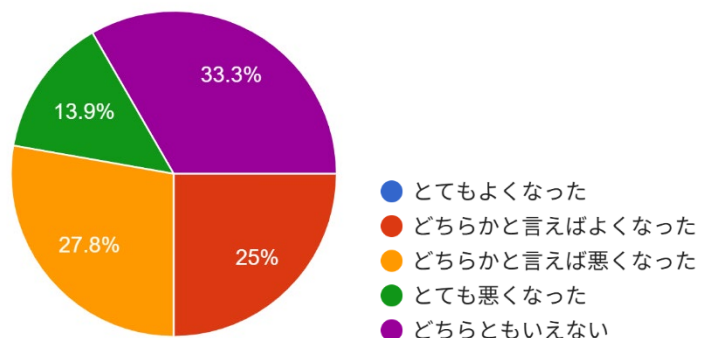
【質問1】 B棟の教室または施設を、講義、演習、会議等で使用することは、週に何回程度ありますか。



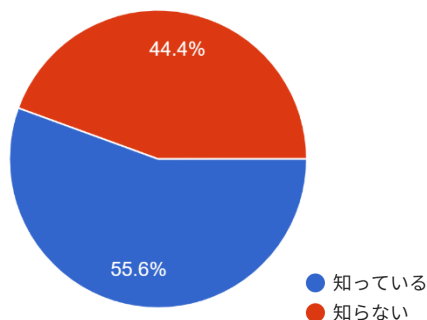
【質問2】 改修前と比較して、教室・施設の教育・労働環境はよくなったと思いますか。



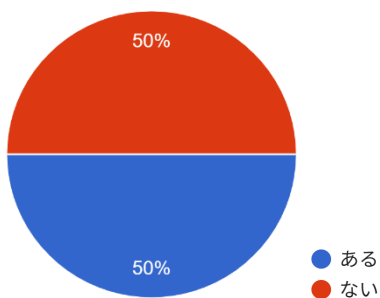
【質問3】 教育学部に適当な教室がなく、総合教育研究棟等、他の建物の教室・施設を利用しなければならなくなったことはありますか。



【質問4】 A棟の全学教職センター管轄の部屋の一部は、講義や会議に使用できると知っていましたか。



【質問5】 A棟の全学教職センター管轄の部屋を、講義や会議に使用したことがありますか。



【自由記述】その他、改修後の講義棟についてのご意見がありましたら、ご記入ください（回答を複数の項目に分類しました）。

事務スペースの狭小化

とにかく狭くなったと思う。事務室が隣の留学生センターなどと比べると、一目瞭然でスペースの使い方に違いがある。同じ条件でカウントして広さを配分しているのに、なぜこのようなことが起こるのかよくわからない。

狭い事務室に8人も押し込められ、窓口対応もままならず毎日が苦痛です。

事務の方の職場環境改善を強く感じます。

面積の計算方法に関する問題

それぞれの研究領域にあった広さと環境の改修工事をして欲しい。

教員数が減っている中、教室や面積の割り当て等、専修単位で割り振る形式を見直した方がよいと感じています。

教室環境の劣悪化

B棟の教室の黒板が小さい。可能であればもっと大きいものをつけて欲しい。

教室が狭く、また壁が薄いためか、隣室から音や声が聞こえることも多い。そもそも授業を実施するのに十分な教室が設置されているのかどうか疑問である。改修によって教室環境は、劣化

したなどという次元ではなく、深刻なダメージを受けている。最大の問題は、授業の最根本にあるべき教室内の静穏が保てないこと。授業中に、教室外の音が侵入し、学生および教員の集中を大きく妨げている（例えば、隣の教室の教員の声がいっぱい聞こえて、自分が聞いている教員の声と重なってしまう点が学生たちにとって極めて苦痛である、とのこと。この一点からしても、教室間の壁がいかに薄いものであるかを理解することができる）。

大学施設は自らアンケートを実施しており、学生がこの問題を抱えていることを認識しているはず（学生からの多くの苦情については、教員側からも伝えていく）。大学施設部は、新潟大学の教育機関としての責任を果たすために、一刻も早く壁と扉の防音機能の再改修を行うべき。その他、教室数の不足、大きな教室の不在なども大きな問題。

大講義室の必要性

大教室がないのが問題だ。入門教育実習の説明会が分散開催になるなど弊害がある。改修後の大講義室相当の部屋を教育学部が優先して使用できるよう交渉してほしい。

大講義室がなくなったのが厳しい。必修科目担当者としては残してほしかったです。

以前の大講義室、あれほど大きくなくてよいのであれば、ありがたいです。

これではよくないB棟改修

改修工事によって講義棟の教育・労働環境が「とてもよくなった」とする回答は0人でした。「どちらかと言えばよくなった」は25%に止まり、否定的な回答（「どちらかと言えば悪くなった」「とても悪くなった」の合計）が約42%と多数を占めました。

「悪くなった」の具体的な内容については、教室が「狭い」、「音漏れがひどい」、「学生が講義に集中できない」等、教育施設として最低限の環境・条件が保障されていないことが指摘されており、早急な改善が必要です。

大講義室が教室として利用することができなくなったことも深刻な問題です。これに加え、改修工事前には講義棟の南側にあった教室（教職サポートルームから105教室まで）がすべてなくなっていました。

これについては、教室面積の計算にあたって、教育学部の教室で専門教育を受けている2年次学生の数が対象から除外されていることを無視することは出来ません。この点についても、今後の検討と改善が求められます。事務室の狭さも深刻です。学生

からの相談、教員との打ち合わせ等も困難な狭さです。

すでに教授会において報告されている通り、教室数の大幅減少によって、学務系の職員の方々は、学期が始まる前には、その都度、教室の確保に奔走しなければなりません。特に大講義室で実施されていた講義はほとんどが必修科目です。学生に対して「必修」として課している講義科目の教室を確保するために、他部局への交渉を含め、事務職員の方が多大な時間と労力を費やさなければならぬ状況についても一刻も早い改善が求められます。

また、今回のアンケートは教員サイドの質問がほとんどで、事務職員の方には回答が困難あるいは不可能なものばかりでした。お詫び申し上げます。今後、事務職員の方々の意見を聞く取り組みを進める予定です。

最後に、問題の根本的な解決には至りませんが、A棟に移転された全学教職センター管轄の部屋（教職セミナールーム、教職多目的ルーム等）は、学務部教務課（総合教育研究棟1階）において必要な手続きを行えば、講義、会議等に利用可能であることをお伝えします。（文責 岡野 勉）

https://www.kyoshoku.nigata-u.ac.jp/upload/20241001054124_091102600.pdf